

同関協だより

第67号

2024年10月31日発行



「同関協」発足50年奉仕団 2024.4.15-16

第67号 主な内容

- | | | | |
|-----|---------------|------|--------------|
| P 2 | 2024年度総会報告 | P 6 | 発足50年奉仕団 |
| P 4 | 2023年度事業報告・決算 | P 10 | 近畿ブロック現地研修報告 |
| P 5 | 2024年度事業計画・予算 | p 12 | 50周年記念大会について |

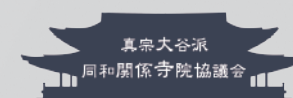
同関協50

差別に苦しむものが一人でもいる限り その差別からの解放を自らの課題とする



同関協だより 第67号

発行日 2024年10月31日 発行人 松尾英城
発行 真宗大谷派同和関係寺院協議会 真宗大谷派解放運動推進本部内「同関協」事務局 〒600-8164 京都市下京区上柳町199 ☎075-371-9247



真宗大谷派同和関係寺院協議会 発足50周年記念大会

2025年3月13日(木) 午後1時30分～

しんらん交流館 大谷ホール

入場無料 どなたでもご参加いただけます

Higashidate Syoken

法話 大谷大学教授 東館 紹見 師

同関協50

差別に苦しむものが一人でもいる限り その差別からの解放を自らの課題とする

編集後記

◆「同関協」が五十周年を迎える。
規程前文には「私たちは、教団内外における部落差別の克服を願ひとし、差別に苦しむものが一人でもいる限り、その差別からの解放を自らの課題とする」と掲げられている◆会員仲間より「最近、うちの行政が「部落差別はありません」と大々的に宣言をした。実際はあるのに…」とお聞きし、近畿ブロックの現地研では「結婚報告を両親にした時、最初の言葉は「おめでどう」ではなく、差別を心配し「大丈夫なのか」だった。悔しく悲しんだ。しかし、自分の子が結婚報告に来た時、同じ心配で自分も最初に「おめでどう」とは言つてやれなかった」とお聞きした◆教区で開催した研修会でご講師が、「本来であれば「同関協」は五十年も続いてはならない組織のはずが続いてしまった。それはなぜか。悲しいことである」と述べられた◆宗門内外から「いつまで「同関協」をやっているのだ」との声を聞く。会員の中からは「スクラップ&ビルド」といった声もある。ただ、スクラップをする、もうビルドの力はないのではとの声も◆五十周年記念事業準備の一環で『同関協だより』を創刊号から全号読む機会があった。歴々の諸先輩方の願い・思い・言葉が詰まっていた◆差別に無関心な人が増えているように感じるなか「同関協」は、そして会員である私は何ができるのか。まず住職・門徒の区別なく共に問うていく仲間を増やしたい。

編集委員 伊藤慈成



「同関協だより」へのご意見・ご感想はこちら

会費納入のお願い
(年会費5,000円)

[□座番号] (ゆうちょ) 01010-6-2770

ドウワカンケイジンキョウギカイ

[□座名] 同和関係寺院協議会



会長挨拶

松尾英城

ご承知のように「同関協」発足以来五十年という一つの節目の時期になるわけでございます。さらに言えば、「是旃陀羅」問題を大事な課題として取り組んでいくそのことも一つの節目があるような気がします。

思い返しますと、私が「同関協」に迎えていただいて、ちょうど三十七年になります。その当時は、吉田証さんが会長でございました。初めて会に出席した総会の会場が、枳殻邸でございました。その会で三要求が語られており、どういうことなのかというふうに思ったことが、今思い出されることでございます。名前も知らない先輩ばかりでしたけれども、なんとなく耳を傾けていますと、お話しになっている内容というのが、「あなたのところはどうかね、なんか問題あるかね?」こんな問題あるし、こんなことに悩んどるよ」というふうな、そういう言葉の掛け合いと言いますか、会話と言いますか、それが耳に入ってきたことでございます。

それで二年目にまた総会に参加させていただいたときに、隣に座っておられた先輩に「どういう思いでこちらに足を運んでいらっしゃるんですか?」と尋ねると、一言、「あなたに会うために来とるんや」とこういう言葉をかけられまして、驚いたことでした。

つまり、それぞれが抱える問題をともに語り合える。そういう会なのだと、一人ひとりにそういう雰囲気があったような気がいたします。

五十年という節目、それから私たちが今後「是旃陀羅」問題を通してどのような歩みをしていくのかという、そういう大事な節目に今差し掛かっているのではないかと、このことを考えさせていただいていることでございます。

本日は暑い中にご参加くださいました。



2024年度 総会議案

- 議案第 1号 2023年度事業報告
- 議案第 2号 2023年度決算書並びに監査報告
- 議案第 3号 2024年度事業計画(案)
- 議案第 4号 2024年度予算(案)

二〇二四年七月二十五日、しんらん交流館大谷ホールにて二〇二四年度総会を開催した。全国から二十八名の会員の出席があった。総会に先立ち、松尾英城会長の挨拶があり、「是旃陀羅」問題を住職と門徒の立場でどう受け止め、また門徒とどう歩んでいくのか、これからの課題などを話された。

木越渉宗務総長と西受秀文解放運動推進本部長、徳永誠解放運動推進本部事務部長が臨席され、木越宗務総長が挨拶された。その後、西受本部長が着任後初めての総会出席につき挨拶をされた。

総会では、浜口和也さん(四国教区)が議長に選任され、提出された全四議案は慎重審議の結果、承認された。

報告事項として、①一名の新規会員加入、②「同関協」五十周年記念事業実行委員会の進捗状況(一、発足五十年奉仕団 二、「同関協だより」ダイジェスト版 三、記念大会)の報告があった。

例年は総会後に学習会を開催していたが、今回は五十年を迎えるにあたり、「同関協」五十年の歩みとこれからのテーマで、会員相互の意見交換会を行い、多数の意見を出し合い交流した。

その後、懇親会を行い、「五十年」に向けてそれぞれ懇親を深めた。

(編集委員 中村昌法)



- 《 2024年 》

7月 9日 2023年度会計監査

11日 第1回三役会(＊)

25日 2024年度総会 交流館大谷ホール

26日 第1回常任・専門委員会 交流館ABC会議室

8月26日 第1回『同関協だより』第67号編集会議 交流館D会議室

9月10日 第2回『同関協だより』第67号編集会議 交流館E会議室

10月17日 第3回『同関協だより』第67号編集会議 交流館E会議室

17日 第1回50周年記念事業実行委員会 交流館ABC会議室

31日 『同関協だより』第67号発行

11月18日 第1回『同関協だより』ダイジェスト版編集会議

12月 日 第2回三役会(＊)

11日 第2回50周年記念事業実行委員会・第2回『同関協だより』ダイジェスト版編集会議
- 《 2025年 》

1月 日 第3回三役会(＊)

2月 日 第3回50周年記念事業実行委員会・第3回『同関協だより』ダイジェスト版編集会議

3月13日 「同関協」発足50周年記念大会

日 第4回『同関協だより』ダイジェスト版編集会議

4月 日 第5回『同関協だより』ダイジェスト版編集会議

5月 日 第4回三役会(＊)

日 第1回常任委員会・第6回『同関協だより』ダイジェスト版編集会議

6月 日 第5回三役会(＊)

日 第2回常任・専門委員会

30日 『同関協だより』ダイジェスト版 発行
- ☐ 三役・解放運動推進本部懇談会

☐ 「同関協」規程 改程検討委員会

☆ 各ブロック協議会 随時

☆ 三役会・各作業部会・50周年記念(「同関協だより」ダイジェスト版)発行部会 随時

(＊) リモート会議

2024年度 真宗大谷派同和関係寺院協議会 予算

歳入の部 3,150,000 円
歳出の部 3,150,000 円

歳入 自 2024年7月1日 至 2025年6月30日

項	目	歳入項目	予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1	1	会費	600,000	600,000	0	5,000円×120ヵ寺
2	1	本山助成金	1,500,000	1,500,000	0	
3	1	繰越金	1,047,580	407,914	639,666	前年度より繰越金
4	1	雑収入	2,420	749,086	△ 746,666	銀行利息
		合計	3,150,000	3,257,000	△ 107,000	

歳出

項	目	歳出項目	予算額	前年度予算額	比較増減	備 考
1		会議費	1,450,000	1,800,000	△ 350,000	
	1	総会費	350,000	400,000	△ 50,000	
	2	会議費	1,100,000	1,400,000	△ 300,000	三役、常任、常任・専門、会計監査、50周年事業実行委員会
2		事業費	1,100,000	850,000	250,000	
	1	組織拡充費	600,000	300,000	300,000	50周年記念大会
	2	会報費	500,000	550,000	△ 50,000	『同関協だより』『ダイジェスト版』発行・編集会議
3		ブロック協議会費	290,000	340,000	△ 50,000	
	1	助成費	240,000	240,000	0	80,000×3ブロック
	2	聞き取り調査費	50,000	100,000	△ 50,000	
4		事務局費	270,000	220,000	50,000	
	1	事務局運営費	170,000	120,000	50,000	役員手当、ZOOMライセンス料金、振込手数料
	2	発送費	100,000	100,000	0	
5		予備費	40,000	47,000	△ 7,000	
	1	予備費	40,000	47,000	△ 7,000	
		合計	3,150,000	3,257,000	△ 107,000	

- 《 2023年 》

7月 6日(木) 2022年度会計監査 京都教務所

10日(月) 第1回三役会(＊)

18日(火) 2023年度総会 大谷ホール

19日(水) 第1回常任・専門委員会 交流館ABC会議室

19日(水) 「是施陀羅」問題についての説明会 交流館ABC会議室

26日(水) 第2回三役会・本部委員会(＊)

8月 3日(木) 第2回『同関協だより』第66号編集会議 交流館E会議室・リモート併用

9月26日(木) 第3回『同関協だより』第66号編集会議 交流館E会議室

10月19日(木) 第1回50周年記念事業実行委員会 大谷ホール

31日 『同関協だより』第66号発行

11月16日(木) 第2回50周年記念事業実行委員会 交流館ABC会議室

12月 6日(水) 第1回常任委員会 交流館ABC会議室

6日(水) 第3回50周年記念事業実行委員会 交流館ABC会議室
- 《 2024年 》

2月 8日(木) 第4回50周年記念事業実行委員会 交流館ABC会議室

3月12日(火) 学習テキスト『御同朋を生きる』説明会 宗務所3F第4・5会議室

12日(火) 第5回50周年記念事業実行委員会

13日(水) 第2回常任委員会 京都教務所3F

4月15日(月)-16日(火) 「同関協」発足50年奉仕団 1泊2日 同朋会館

5月14日(火) 第1回『同関協だより』50周年記念ダイジェスト版編集会議 交流館E会議室

6月19日(水) 第3回常任委員会 ABC会議室

19日(水) 第2回常任・専門委員会 交流館ABC会議室

25日(火) 第2回『同関協だより』50周年記念ダイジェスト版編集会議 交流館E会議室・リモート併用
- ☆ 各ブロック協議会 随時

＊2024年5月15-16日近畿ブロック現地研修会

＊2024年3月28-29日九州ブロック現地研修会

☆ 三役会・各作業部会・50周年記念誌(「同関協だより」ダイジェスト版)発行部会 随時

(＊) リモート会議

2023年度 真宗大谷派同和関係寺院協議会 決算

歳入の部 2,944,009 円
歳出の部 1,896,429 円
歳入歳出差引剰余金 1,047,580 円

歳入 自 2023年7月1日 至 2024年6月30日

項	目	歳入項目	予算額	収入額	比較増減	備 考
1	1	会費	600,000	287,000	△ 313,000	5,000×57ヵ寺・だより講読料@1,000×2
2	1	本山助成金	1,500,000	1,500,000	0	
3	1	繰越金	407,914	407,914	0	前年度より繰越金
4	1	雑収入	749,086	749,095	9	積立金会計剰余金、銀行利息
		合計	3,257,000	2,944,009	△ 312,991	

歳出

項	目	歳出項目	予算額	決算額	比較増減	備 考
1		会議費	1,800,000	1,047,580	△ 752,420	
	1	総会費	400,000	410,980	10,980	
	2	会議費	1,400,000	636,600	△ 763,400	三役、常任、常任・専門、会計監査、50周年事業実行委員会
2		事業費	850,000	437,690	△ 412,310	
	1	組織拡充費	300,000	94,010	△ 205,990	発足50年奉仕団
	2	会報費	550,000	343,680	△ 206,320	『同関協だより』発行、編集会議
3		ブロック協議会費	340,000	240,100	△ 99,900	
	1	助成費	240,000	240,100	100	80,000×3ブロック
	2	聞き取り調査費	100,000	0	△ 100,000	
4		事務局費	220,000	171,059	△ 48,941	
	1	事務局運営費	120,000	124,897	4,897	役員手当、ZOOMライセンス
	2	発送費	100,000	46,162	△ 53,838	
5		予備費	47,000	0	△ 47,000	
	1	予備費	47,000	0	△ 47,000	
		合計	3,257,000	1,896,429	△ 1,360,571	

「同関協」発足五十年奉仕団

二〇二四年四月十五・十六日



二〇二四年四月十五日(月)から十六日(火)にかけて、「同関協」発足五十年奉仕団を実施した。

本奉仕団は、「真宗大谷派同和関係寺院協議会」が発足五十年を迎えるにあたり、四十周年記念誌において提言された「なぜ真宗大谷派という宗門に同和関係寺院協議会が誕生したのか」、そして「同和関係寺院」の名のり、「協議会」として活動し続ける意味は何なのかを改めて確認することの大切さを会員一人ひとりが自覚することにおいて、発足五十年に向けた未来を志向していく道が拓けていくことになるであろう(はじめに)とあることを受けて、改めてこれまでの歩みを確かめるとともに、これからの「同関協」の歩む道について、ともに語り合うことを目的に開催した。

当日は、前田賢龍さん(京都教区石西組)を教導に迎え、浜口和也常任委員の問題提起により、座談会がもたれた。詳細は、以下の通りである。

(編集委員 治田裕臣)

講義 前田賢龍 会館教導

皆さま改めましてこんにちは。京都教区で住職をしております、前田賢龍と申します。今から二十五年前になりますけれども、高木顕明師が擯斥処分を取り消される、その四月に、かつては同和推進本部と言いましたけれども、そこに辞令を受けて、三年三ヵ月ほど本部要員として在籍しておりました。とりわけ最初の一年、二年目は「同関協」の仕事に就いて、色々な人と出会って息に触れなさいということ、ちょうどブロック別協議会が発足したところ、九州の久留米にも寄せていただきましたことなどを懐かしく思い出させていただきました。

今回、皆さまの歩みのなかで大事な節目になる奉仕団になろうかと思えますし、そこに同座させてもらうということも、私にとってもありがたいと

いうか、お叱りを先に逝った方々から受けているのかと思っておるところでした。

私が部落差別問題に出会ったというのは大学であります。大学に行ったときに泉恵機先生に出会ったのが始まりであります。そこでアイヌ民族差別問題に出会いまして、泉先生が学生とともにアイヌモシリ(北海道)に行くというツアーを始められて、一番最初に行くときのメンバーが私でした。

五月の連休の頃になると先生は山に入られて山菜を採って、一緒に食すということがありまして、そこに呼ばれて行きながら、あるいは「群(むれ)」という学習会がありましたけれども、そちらのほうにも十年近く出入りをしながら、いろんなことを学ばせていただいております。そこで、十代の終わりに橘了法さんにお会いをしました。

山菜採りに行っているときに、これも本当に原点ですけども、「お前は誰だ」って橘先生が聞くんですよね。何回か会ってはいるので、「島根のお寺の前田」として今は大谷大学で泉先生の授業を受けています「っていうふうに言ったら、何も答えられないで、また言う。「お前は誰だと俺は聞いているんだ」と。段々不思議に思ってきますよね。当時は意味がよくわからなかったのですが、後から思い返しておったのは「何を課題にして生きている人間なのか」、そのことを先生は知りたかった。僕が何をどのように大事にして生きている者なのかということから出会いたかった。おそらく後から思えばそうだったんだなということを思います。

それから、蓮如上人御遠忌を迎えるにあたって橘先生へインタビューをさせていただいた時、しきりに「寂しいものは寂しい、悲しいものは悲しい」といつて抱き合える。出会える。それが「同関協」、我々の仲間なんだ」ということをおっしゃっていました。

残念ながら朝野温知さんとはお会いすることができなくて、木之本町(現 長浜市)の信楽会館というところに三回ぐらいお伺いをさせていただき、お連れ合いのクニさんにお会いして、昔の写真をを見せていただいて、お話を伺ったこともありました。

実は、私の連れ合いは滋賀県の同じ木之本町のお寺の出身でありまして、その住職が義父にあたりました。その義父が亡くなる前に病床の自宅のベッドに呼ばれて、いろんなお話をする中で、「結局何にも変わらんかったんや」と。行政でもいろんなことをやってきた。この長浜教区(当時)というところでも本当にいろいろやってきた。五村別院の輪番もさせていたでいていましたし、そういう意味では晩年、いわゆる宗教というところでも関わった方でありました。「結局何も変わらんかったんや。それだけは言っておかないといけないと思う」と。これが僕にとつての義父の遺言でありました。

今回の奉仕団にあたり、出向依頼を受けてからの二週間、本当にいろんなことを自分の人生を思い起こして、過去のものと、手元にある橘先生やいろんな方々のものを一通りザッと目を通したら、やっぱり「同関協」とか、この大谷派の部落解放運動っていうのは武内了温さんが名前としてはあがると思うんですけども、この「同関協」が本当に悲しみを悲しみとして抱き合えて、その場所を与えてくださった場所があり続けた場所なんだと、それを教団内でずっと伝え続けてきた場所なんだ、ということを思います。

私たちが部落差別問題の中で、水平社から百年以上、「同関協」発足からもう五十年になってくる。その中で「何も変わらなかった」と義父が言うように、皆さん方の中でもむなしさも残っていることがあるんじゃないかと思えますけれども、そういったところで私たちの身が縁になっていく。どのような行いでも差別というのはするようになるっていうことです。どんな行いでもするようになる。差別者の自覚。橘先生が出征のときに武内了温さんにかけられた言葉で「静かに己れを悲しむところより真実の力は生る」(『武内了温遺稿集』三〇三頁)という有名な言葉がありますけれども、それはやっぱりそこに言いつくしがたい悲しみがある。そして了温さんと橘先生の中ではそこに本当に抱き合えて、ここにこの人しかいない、あるいはこの場所しかないということをお互いに持つておられたんだと思います。

(抄出 編集委員 浜口和也)

まず一つ目に、「私は「同関協」の会員として何を求めて参加しているのか」を、ぜひ皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

「同関協」っていうのは同窓会みたいなもの・親睦会みたいなものというように揶揄されるようなこともあったそうですけども、その中で現場に身を置くそれぞれが同じ課題を共有し、それを考えていける集まり、友というのが、この「同関協」に参加していく意義の一つだと思います。

二つ目に、「同関協」として今後私はどうしていきたいか、どんなビジョンを描いているのか、またそれを会員内でどう共有するのかという問いを思ったときに、やはり内輪だけではなく、この教団内で、私たちがどれだけ自分たちの悩みや、課題というのを共有できているのか、最近では会員内でもきちんと共有できているんだろうかという疑問があります。

三つ目には、この間全カ寺にも発送されました『御同朋を生きる』『是旃陀羅』問題の学習テキストですね。これを読んだその先を考えていきたいと思っています。私たちが現場ですべきことは、ご門徒への懺悔と共感だけなのか、というところです。私が思うのは、『御同朋を生きる』を読んで、「これが自分の課題になっていくのだ」と思う人がどれだけいるのかということです。

これは部落差別問題ということもあるかもしれないですけども、それ以前に私たちの正依の經典である『観無量寿経』の課題ということが、やはり問われているのだと思うんですね。

それには井元麟之さんが提言されているように、「旃陀羅だって人間だ。人間を人間でないものとして扱ってきた、この仏教の歴史は一体何なんだ」という、その問いかけについて、私たち真宗門徒は、人間を人間でないと説いてきた歴史にどう懺悔していくのか。

四つ目として、かつて「同関協」は発足のときから「三要求」というのがメインとして、宗派に明確に訴えていくことや、改善すべき社会状況がありまし

たけれども、今はそういった明確な状況というものが何か薄れてしまっていると言いますか、失ってしまったと言いますか。今は「同関協」規程前文に始まる理念のみが残っていて、およそ空洞化していつてしまっている団体ではないかなと、きつい言い方かもしれませんが、言い換えれば「同関協」の目的を失っていないだろうか、ということを提起させていただきます。

これは同朋会運動でも同じことが言われていますね。同朋会運動という言葉だけがあつて、その中身が空洞化してしまっていると。「同関協」発足五十年を契機に、もう一度この目的というのを設定し、それを共有していく必要があると考えます。

先の奉仕団において残された課題と提言ですけれども、基本姿勢として「同関協」慶讃法要記念大会の中で「読めない」ということを表白しました。この「読めない」ということを共有したとして、『観無量寿経』自体を読まないのか、「是旃陀羅」のみを読まないのか、また「観経和讃」や「変成男子」「五障三従」の扱いをどうしていくのか。このまま読み続けるのであれば、宗派としてその教学的根拠を返答しなければならぬですし、読まないならなぜ読まないのかを教学的根拠とともに、どのようにして読誦するか、儀式的な根拠も含めて、私たちは表明していかなければならないと思います。この五十周年の記念事業を踏まえて、より私たちの歩みを確かめていく中で、自身の課題と宗派全体の課題を提言できるような歩みにしていけたらと思います。

最後に、この五十年で一旦「同関協」という名称も含めて終止符を打ち、この取り組みをどう継承していくのかを考えてはいかかがか、と、こういう意見も出されております。新たな組織づくりに向けた体制を構築していくということが議論されていくべきかどうか。これも踏まえて、座談の場で忌憚のない意見を出していただければと思います。

班別座談・全体協議（主な意見）

①「是旃陀羅」問題について

・「是旃陀羅」という差別用語が問題なのか、それを被差別部落民であると説いてきた教えが問題なのか、それともそれをずっと放置して問題性を問題としてこなかったことが問題なのか、そういった一つ一つを我々が確かめながら、ともに考えていかなければならない。

②『観経』読誦について

・『観経』序分の「是旃陀羅」の部分を読めないという理由を、もっとはっきりする必要がある。新しい読み方でも読めないんだと明確にする必要がある。

・『観経』序分の「是旃陀羅」の部分を読めないと言い続けるのか、黙読とするに変えてもよいのでは。

・「読めない」から、積極的に進んで「読まない」という表現にするのか、根拠を確かめることも含めみんなで考えていきたい。



③「是旃陀羅」問題学習テキスト『御同朋に生きる』について

・旃陀羅の語を読めないということが解消されていない。

・現代社会と乖離がある。これが実際ある差別の問題とどう繋がっていくのかピンとこない。

・テキストでの読み方に替えて差別は無くなるのだろうか。

・第三章では従来の解釈の訂正ならびに訂正現代訳が書かれているが、旃陀羅への差別が解消されていない。

④発足50年を迎えるにあたって、また「同関協」の今後について

・発展的解散という声も聞かすが、小さくても継続して何ができるのかを考える必要がある。

・差別をうけて痛いという言葉や、我々も痛いと感じる者がここに集っていると思っている。そういう者たちが集ってこれからどうしていこうかと、ざっくばらんに膝を並べて話していける関係というのが、継続していくうえで大切なことでないか。

・「同関協」は基本的に部落差別を大きなテーマとして取り組んできた団体だと思いますが、いまの現代社会を考えていくと部落差別の問題だけではなくて、社会全体があらゆるところで、分断とか孤立化とか悲しみが深まる時代社会の中において私たちが活動していく、なかなか一人ではできないけれど、同じ志を持つものが集まっていくことは、大事にしていきたいと思います。

・継続していくこと、歩み続けることが一番大事だと思っています。発展的解散というのも一つの選択だとは思いますが、この一泊二日で様々な意見を聞かせていただく中で、それが自分の中で固まってきたなという感じです。

・伝わってきた歩みを伝え続けるという言葉がとても印象的で、先輩が歩んできたことを伝え続けるということが、我々の大事な使命ではないのかと思います。

・組織的な現実の問題として、「同関協」は宗派からの助成金で成り立っています。今後増えることはないですし、完全に打ち切られることもあるかもしれません。もし宗派からのバックアップがゼロになっても我々は運営し続ける覚悟はあるのか、そういうことを考えることも必要になってくるのではないかと思います。

・「同関協」を知らない人に対して「同関協」というのはこういった会員がいて、こういうことをしている団体なんだよと、もっと広く伝えつつ、教区内、組内で声をかけて参加を募れる会に今後なればよいと思う。

・「同関協」は運動体なので、止まらずに動き続けていくほかない。動き方は今後議論の必要はもちろんあるが、止まったら運動ではないので、ここにいる動き続ける仲間とこれからも行動していきたい。

・「同関協」の目的が22年の歩みと、40周年の記念誌とでは、規程第2条の（目的）の文言が違う。50周年後の歩みとして規程の見直しも見定めて、会員の在り方も含め考えていく必要がある。

（編集委員 小幡智博）

2024年5月15(水)～16日(木)

「同関協」近畿ブロック現地研修会

会場

真宗大谷派 船場別院本徳寺・山陽教務所

西御着総合センター 他

5月15日(水) 日程

10:30 西御着総合センター 皮革資料室見学・説明

(案内・講話) 林 久良 さん

13:30 船場別院 勤行・開会挨拶

(講話) 川口泰司 さん

18:30 懇親会



5月16日(木) 日程

9:00 西御着総合センター 皮革工場 フィールドワーク

(講話) 林 久良 さん

12:00 船場別院

13:30 (講話) 一法師 本治 さん

15:45 閉会式



五月十五日(水)～十六日(木)、近畿ブロック研修会を真宗大谷派船場別院本徳寺・山陽教務所・西御着総合センターを会場として開催し、山陽・四国・九州・長浜・京都教区から二十五名の方にご参加いただいた。

西御着総合センターでは、二〇〇五年に隣保館モデル事業として設置された皮革資料室にある江戸や昭和の皮革製品等を見学した。地元の仏教史学研究者・皮革研究家の林久良さんから、「皮革の歴史」と題して説明があった。「豊臣秀吉は播磨の名産として「塾皮」を織田信長に献上している。皮から革に変化させる知識、牛から皮を剥ぐ作業等、卓越した技術が必要であり、脱毛に適した河川のある高木地区が世界的に評価される皮革の産地となった。皮革の歴史は被差別部落の歴史の根幹をなすものである」と話された。

続いて、船場別院に移動し、社団法人山口県人権啓発センター事務局長の川口泰司さんより、「ネット人権侵害と部落差別の現実」寝た子はネットで起こされる」と題してお話をいただいた。

現代のインターネット社会は、部落差別に関する誤った情報が拡散されることによって部落解放百年間の取り組みを一瞬にして破壊するものである。ネット時代の到来と共に、どこが同和地区かをネットで晒す、新たなさらし差別が生じている。それも、故意にネガティブな印象を与える表現が大変多い。ネットの管理側が誤った情報を掲載してい

るものに対して削除する事案もあるが、まずは一人一人が適切な情報かどうかを見抜く力が求められる。差別は無知・無理解・無関心から起こる。人権差別問題は、「自分は差別をしないから大丈夫」で終わってはいけない。大事なことは差別を許さない生き方や行動ができるかどうか問われている。

また研修会等で結婚差別を教材化することがあるが、差別の厳しさだけを強調する研修会だと、かえって取り組みを遠ざける。七割のカップルが結婚差別を乗り越えている。乗り越えたカップルは人権教育を受けているからこそ、差別に向き合い、差別を許さない歩みが生まれると語られた。

川口さんは講話の締め括りに、今から百年前の絶望的な差別の中で水平社は立ち上がった。水平社宣言は「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と訴えた。部落民の世に熱あれ、部落民に光あれではなく、「人・人間」と表現されたところに、宣言がもつ全人類への願いが込められていることを強調された。

翌日には近隣のなめし工場見学を行い、なめしや乾燥、着色等の皮が革に精製される工程を見学した。地元自治会長さんより、「今も変わらず非常に厳しい部落差別のことを考えると、娘の結婚を心から祝福できなかった」と挨拶があった。とても厳しい部落差別の中で、世界で評価される品質の皮革製品を作り続け、たくましく生き抜いて来た被差別部落の歴史と現状を学んだ。

引き続き、林さんから「井元麟之とは施陀羅問題」と題して講話があった。本願寺の僧侶・布教師は、「施陀羅は日本における特殊部落民であり、それは前世で犯した罪(殺生)の報いとして現世で特殊部落に生まれた」と説いてきた。これに対し井元さんは異議申し立てを行った。この施陀羅観を正さなければ、部落差別はなくならない。是施陀羅の部分を読めば、母親殺しを認めることになる。井元さんが解放運動に捧げたのは、こういった人間観を打破するためであったと語られた。

午後、船場別院に移動し、「通夜法話における部落差別発言・差別発言事件から七年」ともにある具体的な一人に」と題して、大分市で惹起した真宗大谷派僧侶による部落差別発言事件について、一法師本治さんからお話をお聞きした。「父親の通夜法話で、耳を覆いた



くなるような、そして耳を疑いたくなるような部落差別発言があり、お寺に指摘したが部落差別発言ということに気付いていなかった。当時は教職で同和教育に携わっていたことから、解放運動を推める被差別当事者の方々など多くの参列者の目面前で、参列者の方々へ申し訳なかったという気持ちが大きかった。この発言直後から、学校や行政でこのことについて研修を始めたが、大谷派では取り組みが進まなかった」と、宗派に対する姿勢に問題を投げかけられた。現在、九州教区がこの差別発言事件をもとに学習教材テキストを作成し、部落差別問題に取り組んでいる。最後には「真実を知る義務と知った責任」そして「ともにある具体的な一人に」と、参加者・大谷派・宗教者へ解放運動に対する期待をお聞きした。

今回の研修会の学びで共通していることは、差別は無知・無理解・無関心から生まれるということである。「同関協」近畿ブロックでは、引き続き差別をなくすための学習を行っていききたい。

(近畿ブロック 岡田克也)

